

とおかまち地区

(新潟県十日町市)

- 計画期間 平成17年度～平成21年度
- 面積 493ha
- 交付対象事業費 2,292百万円
- 市人口 53,681人(地区内人口 6,259人)

ポイント

だれもが安心して活動できるにぎわいあふれる都市ゾーン

- ① 安心・快適・暮らし続けたいまちづくり
- ② 人を惹きつけ活気にあふれるまちづくり
- ③ 世代間地域間の交流によるふれあい満ちたまちづくり
- ④ 地域に誇りと愛着をもつ創造性豊かなまちづくり

目標

暮らしやすい街・行ってみたい街を基本理念とし「安心」・「快適」・「賑わい」を目標に中心市街地の再生を目指す。

指標

歩行者のための道路環境整備により安心感と来訪者の回遊性を高めることで「歩行者数」が増加し、区画整理事業等の居住環境整備により安心して市街地に暮らせるという観点から「買物利用割合」、「区域内人口」の減少率の抑制を図る。また、賑わいの指標としてお祭りの入り込み客数を設定。

地区概要

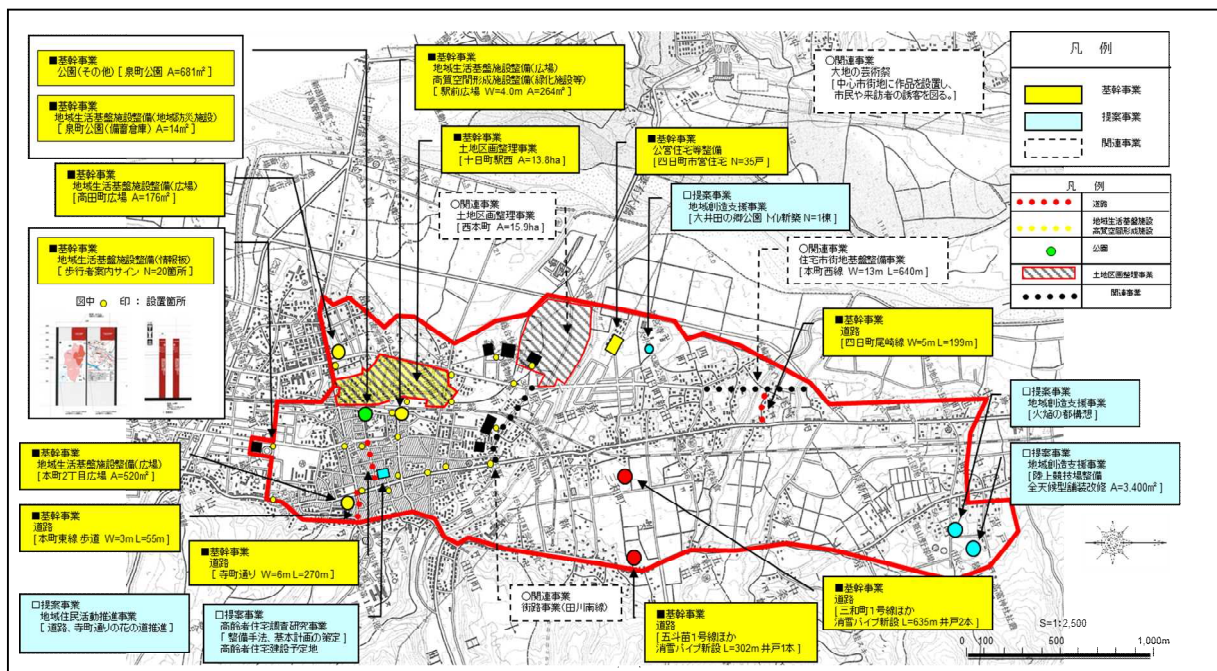
道路や区画整理等の基幹事業により居住環境を整備することで定住人口減少に歯止めをかけ、誰もが安心して暮らせる市街地づくりを実現する。また、各種イベントに訪れる来訪者やスポーツ施設・文化財を活用した交流人口の増加により街中の賑わい再生を図る。

歩行者数	634人 (H16)	→	865人 (H21)
買物利用割合	-3.09% (H13)	→	-0.73% (H21)
人口減少率の抑制	-1.23% (H15)	→	-0.87% (H21)
お祭りの入り込み客数	188,000人 (H15)	→	276,000人 (H21)
陸上競技場利用者数	27,861人 (H15)	→	30,525人 (H21)

事業内容

基幹事業 (2,136百万円) → 道路(幅員3m~6m・延長524m、消雪パイプ整備)、公園(1箇所:681㎡)、広場(2箇所:696㎡)、防災備蓄倉庫1棟、歩行者誘導案内板20基、駅前整備(ロードヒーティング、石張舗装)、土地区画整理事業(13.8ha)、公営住宅整備(1棟:35戸)

提案事業 (156百万円) → 事業活用調査(高齢者集合住宅調査研究事業)、まちづくり活動推進事業(住民活動推進ワークショップ)、地域創造支援事業(陸上競技場改修、火焰の都構想運営支援、大井田の郷公園整備)



地区の現況と課題

古くから商業・地場産業の中心を担ってきた中心市街地が、地場産業である織物業の衰退、車社会による生活様式の変化、冬季間の屋根雪処理の苦慮等から郊外への転居による空洞化、核家族による少子高齢化が進んでいる。さらに、郊外型の商業施設の進出や公共・公益施設の移転等により空き地・空き店舗が増加しており、現状のままではさらなる増加が懸念され、中心市街地の都市活動・経済活動・賑わいが低下しつつある。

- (課題)
- ① 衰退した中心市街地のにぎわいの衰退
 - ② 中心市街地内の人口減少の抑制
 - ③ 高齢者歩行者空間の確保とまち歩きの仕掛け
 - ④ スポーツ活動の振興、文化財の保護と活用



▲ 中心市街地に点在する放置空き店舗

提案事業の特徴

目標を達成するためのソフト事業やスポーツ施設・文化財の活用による交流人口の増加を図る事業を計画している。

高齢者集合住宅調査研究事業

「十日町TMO」と連携し、TMOが計画する事業の事前調査・研究を行い、官民共同で目標達成のための事業化を目指す。

住民活動推進事業

公園や道路整備では、関係地域住民を組織化しワークショップを行い、整備内容や景観形成、まちづくりに対する取り組み。

「火焰の都構想」運営支援

新潟県唯一の国宝である火焰型土器群が出土した笹山遺跡の保護と活用を図るため、地域住民が実施している活動の支援。



▲ 街の角々に設置された歩行者案内板

計画策定プロセス

公募委員による事業計画策定

“まちづくり総合支援事業”から継続した事業であるが、まちづくり計画を策定する上で、策定委員には市の広報による公募を行い、市民参加によるワークショップ形式で事業計画の策定を行った。

地権者の勉強会

街路事業については、事業実施後の景観形成や安全等を視野に入れ、関係地権者との勉強会を開催し、住民合意形成を図った。

ワークショップの開催

公園整備については、地域住民とワークショップを開催し、新潟県中越地震における避難生活の経験から、災害時の仮設トイレ・生活雑用水・備蓄倉庫の必要性が提案され、公園の設計に反映された。



▲ 公園整備ワークショップの様子



▲ 地域住民の発案を取り入れた公園